

訓練プログラム案

「計画は立てたが、いざという時に本当に動けるだろうか？」

そんな不安を解消するためには、計画を形骸化させない「生きた訓練」の繰り返しが不可欠です。特に介護現場では、限られた人員で利用者の命を守りながら業務を継続するという、極めて困難な判断が求められます。

本資料は、日々の業務の中で無理なく取り組めるよう、短時間で実施可能な実動訓練やシミュレーション形式のプログラムをまとめました。各プログラムには、その内容が「BCP（事業継続）」に関するものか、「避難確保計画」に関するものかをアイコン等で示しています。

実施にあたっては、各施設の夜間体制や利用者の ADL に合わせ、シナリオの時間設定や役割分担を適宜書き換えてご活用ください。また、訓練後は必ず振り返りを行い、計画の不備を見つけ、修正につなげることが重要です。「誰一人取り残さない」介護現場を守るため、本資料を「災害に強い組織づくり」にぜひお役立てください。

訓練の計画から実施までの進め方について

- 実施計画書の作成
訓練の日時・目的・目標を設定し、参加者を決定します。
- プログラムの作成
実施計画書の内容に基づき、具体的な進行プログラムを作成します。
- 参加者への周知
参加者へ実施計画書およびプログラムを配布し、訓練の趣旨や内容について事前に説明します。
- 訓練の実施
訓練は訓練管理者が進行します。
はじめに訓練の概要を説明し、検討する内容を共有します。
その後、状況付与、話し合い、発表などを段階的に進め、最後に振り返りを行い、結果を整理し、参加者で共有します。